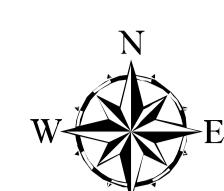


想定東海地震による東京湾津波防災情報図広域版（引潮）

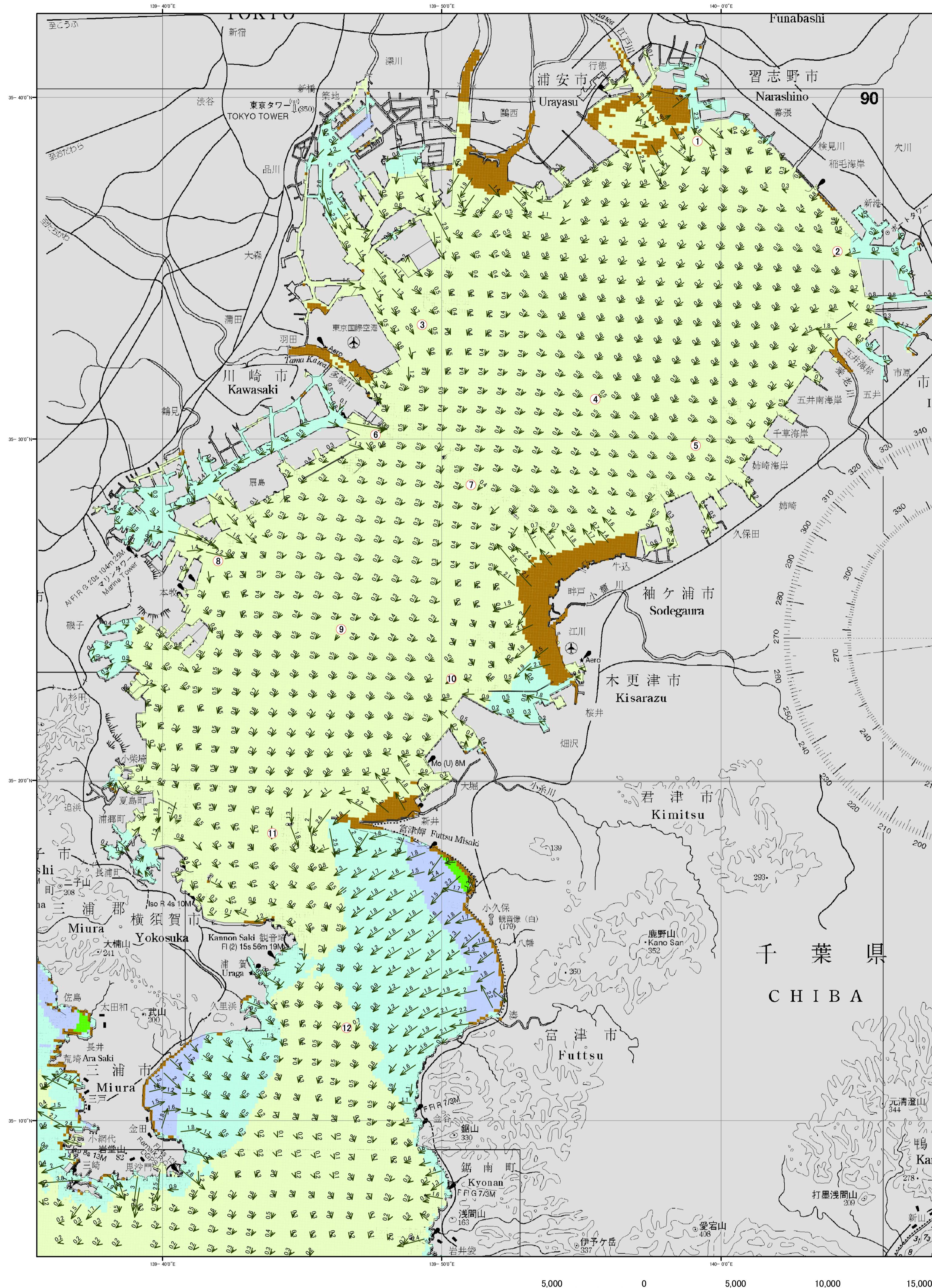
計算条件：最低水面・150mメッシュ

隆起量：平均0cm(-2cm~0cm)



1:125,000

座標系：メルカトル図法
漁港地図：世界地図(WGS84)



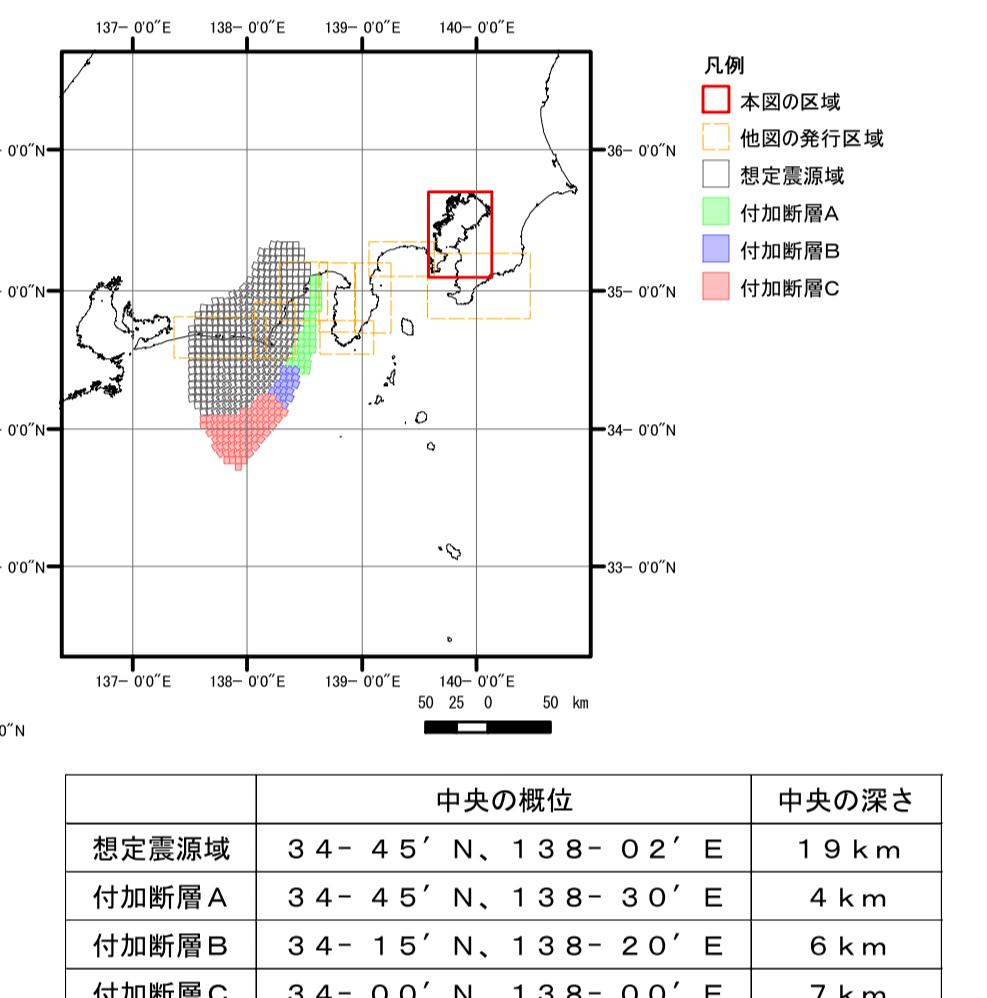
凡例

	露出域
	経時変化図出力点
	最大水位低下
150 ~ 最大184cm	
100 ~ 150cm	
50 ~ 100cm	
50cm未満	

引潮時最大流 [knot]

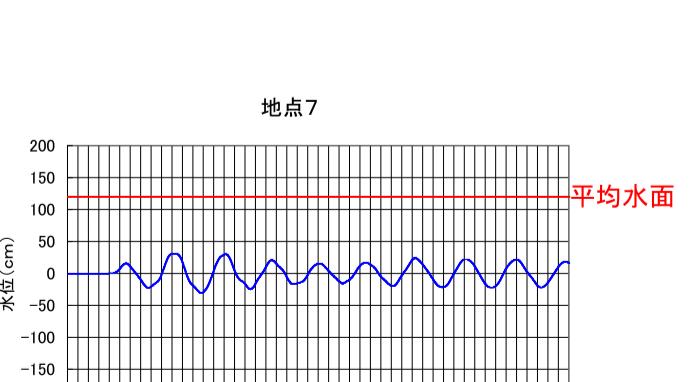
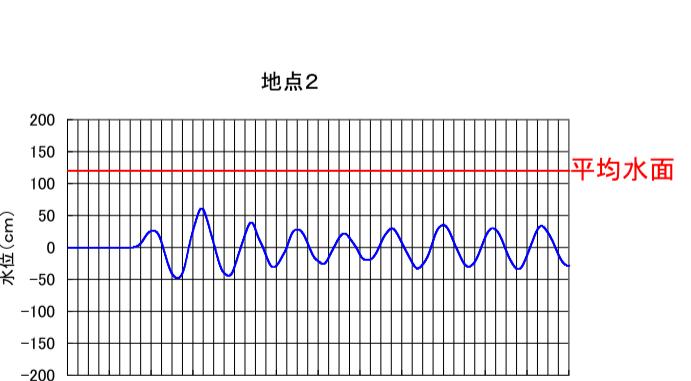
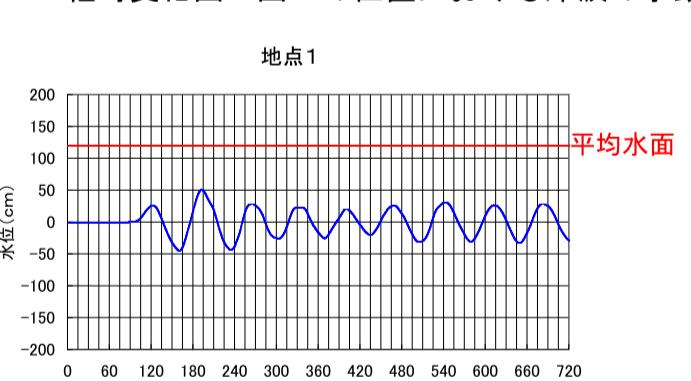
	3 knot
	2 knot
	1 knot

本図の区域及び想定震源域と付加断層の位置



・本図は、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会（平成13年12月11日）」で公表された断層モデルを使用した。

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。



・この図は発災時から1.2時間のシミュレーションを行なっています。
・最大流の矢印は、1.2時間のシミュレーション時間から150mメッシュ7*7個(1050*1050m)の49個から最大のものを表示しています。
・表示されている流速矢印は津波による流向・流速を示しており、海潮流の要素は考慮されていません。
・津波の到達時間は、水位が10cm上昇した時点を示しています。
・経時変化図(水位変動のグラフ)は最低水面を基準面として、1.2時間の津波の水位変動を表示しています。時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
・経時変化図に記載されている赤線は、潮汐が無いと仮定したときの海面(平均水面)を現しています。
・陸部の情報は海図から採用しています。
・計算に使用した地形データは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作製する際の基礎データを使用しています。

・この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号平:15総使、第672号)

